



兵庫県立大学 生涯学習公開講座ダイジェスト

平成27年度 兵庫県立大学 生涯学習公開講座

ヨーロッパの建築入門-新たな保存・開発手法

日 程： 平成27年11月14日（土） 13:00～16:30

受講者数： 23名

会 場： 姫路環境人間キャンパス F102講義室

講 師： 環境人間学部 准教授 三田村 哲哉

○テーマ・概要

ヨーロッパの建築入門-新たな保存・開発手法

○内 容

建築遺産に対する文化的な意識の向上、人口減少や産業移転などの社会問題への対応を背景に、既存の建築を保存・開発して有効活用する新たな事業が普及している。本講座では建築先進国の中でもフランスにおける最新の事例を紹介した。

コンバージョン・リノベーションは「保存」と「開発」の間に生み出された新たな建築手法である。多少なりとも建築に興味・関心のある向であれば、「コンバージョン conversion」を一度は耳にしたことがあるに違いない。今日、「遺産」から「ストック」までの実に幅広い既存建築を再生させる新たな建築手法あるいはその行為を表す言葉として用いられるようになったからである。ではそれはどのようなものか、本論は建築の修復手法のひとつであるコンバージョンについて再度整理し直した上で、秀作3例を取り上げながらその将来像を試論したものである。まずはじめに、この言葉の意味を考え直すところから始めよう。

コンバージョンはもともと建築の専門用語ではない。今日の典型的な用例の引くと、「貨物船の客船への改造(the conversion of a freighter into a passenger liner)」とある。つまりはこれまでのとは異なる目的や用途に応じて「もの」を造り改めるということである。ところがこの言葉の元となるラテン語“*conversio*”には宗教的な意味合いがあって、「神に振り向く行為」、すなわち「神に頼り、意欲的に完全を目指す」ことを表していた。「回る、回転する」という行為そのものに加えて、積極的な意思あるいは強い意欲がうかがえるのだ。

その一例にパリのオルセー美術館がその先駆けのひとつに挙げられても、誰も疑わない。なぜならば、美術館として機能するように新しい内部空間が「開発」された一方、例えば壁から天井にかけて貼りつけられた 988 枚の格間（ごうま）が一度取り外され、構造体の補修後に再度貼り直すというように実に巧妙に「保存」され、こうした用途の変更と建築の改造の組み合わせが実現しているからである。